

**Paguroidea** ホンヤドカリ上科**Diogenidae** ヤドカリ科***Areopaguristes japonicus* (Miyake, 1961)** ブチヒメヨコバサミ

(図 12)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, タコつぼ, 2013年4月20日, 1抱卵メス (sl 3.9 mm), SNMH. . 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013年6月9日, 1オス (sl 3.9 mm), SNMH. 鳥取県. 岩美町田後沖, 小坊主, 水深 17 m, SCUBA, 2019年5月12日, 1性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2'N, 134°31.1'E, 水深 26 m, SCUBA, 2019年6月4日, 1性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (房総半島・福井県から九州まで, 伊豆大島), 韓国 (奥野・有馬, 2004, *Paguristes japonicus* として報告; Komai, 2009, *Stratiotes japonicus* として報告; Kim and Kim, 2014).

生息場所. 岩礁; 潮間帯から水深 25 m (Komai, 2009, *Stratiotes japonicus* として報告).

備考. 本種は *Paguristes* Dana, 1851 として記載されたが, 現在は Rahayu and McLaughlin (2010) によって *Areopaguristes* Rahayu and McLaughlin, 2010 (ブチヒメヨコバサミ属) に所属が変更されている. Komai (2009) は, ブチヒメヨコバサミを再記載するとともに, 新種クロゲヒメヨコバサミ *Stratiotes nigroapiculus* Komai, 2009 を記載し, これらの2種はよく似ていることから, 後者はブチヒメヨコバサミの過去の記録報告において混同されていたことを述べている. なお, これら2種が属する *Stratiotes* Thomson, 1899 は, *Stratiotes* Putzeys, 1846 (甲虫目) の新参同名 (junior homonym) であることが判明したことから, 先に触れたとおり Rahayu and McLaughlin (2010) によって, 前者に対して置換名 *Areopaguristes* が与えられている. その後 Marin (2016) は, *Areopaguristes nigroapiculus* を *A. hirsutimanus* (Kobjakova, 1971) の新参異名 (junior synonym) と結論付けている.



図 12. *Areopaguristes japonicus* (Miyake, 1961) ブチヒメヨコバサミ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 3.9 mm).

***Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) イソヨコバサミ**

(図 7A, 13)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013年4月16日, 1オス (sl 6.1 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013年5月14日, 2オス (sl 6.0, 6.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013年10月10日, 1オス (sl 6.8 mm), SNMH. 鳥取県. 東伯町 (琴浦町)逢東沖合 40 m, 水深 4 m, 1990年8月1日, 2乾燥個体 (1オス, sl 5.6 mm; 性未確認, sl 未測定), TRPM (未登録).

**分布.** アフリカ東岸からインドネシア, タイ, 台湾, 日本 (東京湾・石川県から九州まで, 琉球列島), 韓国, フィジー (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2017).

**生息場所.** 海草藻場, 砂底, 岩礁, サンゴ礁; 潮間帯から水深 15 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

**備考.** イソヨコバサミは, 日本沿岸の岩礁潮間帯において確認できる代表的なヤドカリ類の1種である.

品川・秦 (2005)は, 松江市鹿島町御津において岩礁潮間帯の生物分布の調査を行っており, イソヨコバサミは同所的に見られるホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887)に比べてより低塩分域においても生息できる広塩性の海岸動物であると報告している. しかし, この場所と同様に日本海に面した松江市島根町佐波の小河川の河口部の低塩分域では, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 とホンヤドカリのみが見られ, イソヨコバサミは確認されていない. 島根半島沿岸では, ホンヤドカリに比べてイソヨコバサミの出現個体数が明らかに少ない.



図 13. *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) イソヨコバサミ, 松江市島根町小具, オス (sl 未測定).

***Dardanus arrosor* (Herbst, 1796) ケスジヤドカリ**

(図 14)

**調査標本.** 島根県. 松江市境水道, 底曳網, 2005年10月20日, 1メス (sl 23.7 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014年6月21日, 1オス (sl 9.3 mm), SNMH. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深100 m, けた網, 2018年5月15日, 1性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深120 m, けた網, 2018年5月15日, 1性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

**分布.** アフリカ西岸 (ギニア湾)・東岸, 地中海, 紅海, フィリピン, 台湾, 日本 (相模湾・男鹿半島から九州まで), 韓国, 東シナ海, オーストラリア, ニュージーランド (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

**生息場所.** 砂泥底, 岩礁; 水深15–290 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

**備考.** ケスジヤドカリは, アカボシヤドカリ *Dardanus aspersus* (Berthold, 1845)およびトゲツノヤドカリ *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849)とともに, 島根半島沿岸の砂泥底における底曳網漁業で混獲される代表的なヤドカリ類である.

本種は, 宿貝の表面にヤドカリイソギンチャク *Calliactis japonica* Carlgren, 1928を付けることがある (有馬, 2014).



図 14. *Dardanus arrosor* (Herbst, 1796) ケスジヤドカリ, 島根県松江市島根町野波, 漁港, オス (sl 9.3 mm).

***Dardanus aspersus* (Berthold, 1845) アカボシヤドカリ**

(図 15A)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013年6月26日, 1性未確認個体 (sl 12.2 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013年9月10日, 1メス (sl 16.7 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, かご網, 2013年11月9日, 1メス (sl 22.2 mm), SNMH.

**分布.** 日本 (房総半島・富山湾から九州まで), 台湾, 東シナ海, 南シナ海, アンダマン海 (McLaughlin, 2002a; Asakura, 2006).

**生息場所.** 砂泥底; 水深 15–50 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

**備考.** Miyake (1978)および三宅 (1998)は, ワタセヤドカリ *Dardanus watasei* (Terao, 1913)をヒラテヤドカリ *Dardanus scutellatus* (H. Milne Edwards, 1836)と同一種とみなした. しかしながら, Osawa (2013)は, 前者のタイプ (模式)標本の再検討に基づき, アカボシヤドカリと同一種であることを明らかにした. なおヒラテヤドカリは, 東アフリカからフレンチポリネシアにわたるインドー西太平洋の広域に分布する種であり, 日本では琉球列島と小笠原諸島から記録されている (三宅, 1998; Rahayu and Osawa, 2012; Poupin et al., 2013). ヒラテヤドカリは, 形態および色彩ともアカボシヤドカリとは大きく異なる (図 15B).

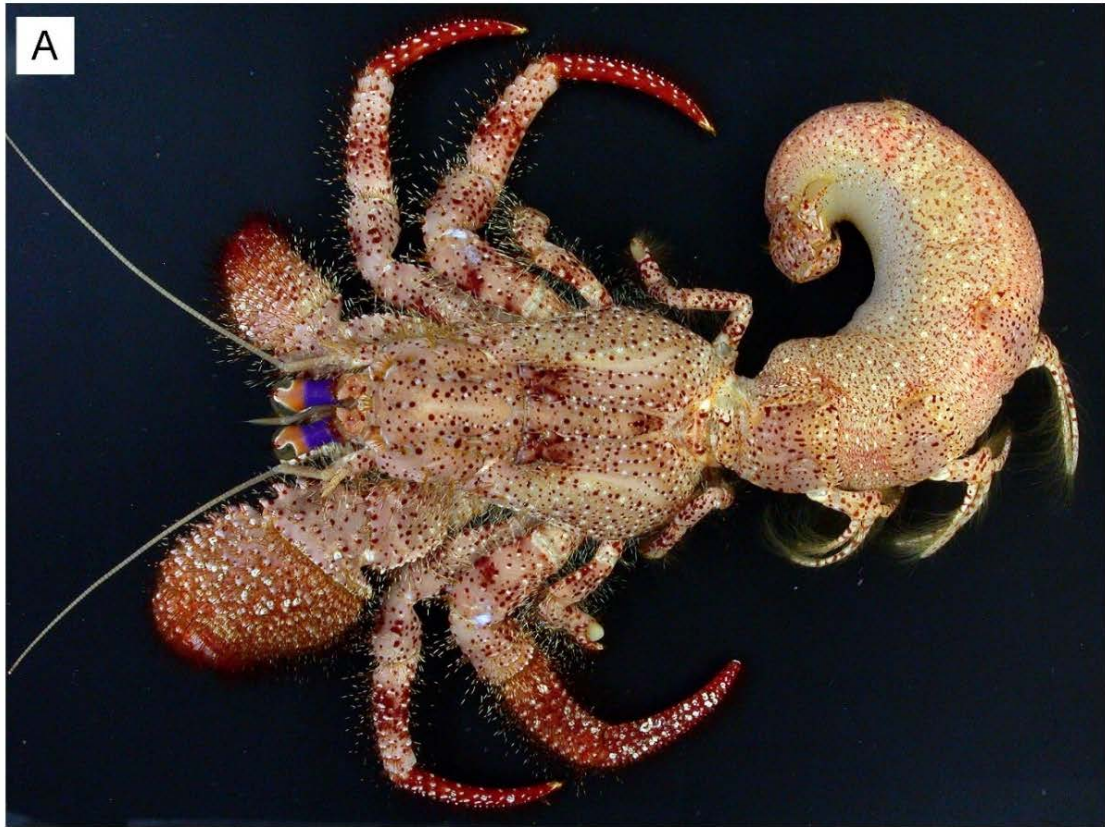


図 15. *Dardanus aspersus* (Berthold, 1845) アカボシヤドカリ, 島根県松江市島根町野波, 漁港, メス (sl 未測定) (A); *Dardanus scutellatus* (H. Milne Edwards, 1836) ヒラテヤドカリ, 沖縄県浦添市空寿崎 (沖縄島), オス (sl 未測定) (B).



***Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836) イシダタミヤドカリ**

(図 16)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, 2013年7月9日, 1メス (sl 19.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013年8月2日, 1オス (sl 18.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 2013年8月9日, 1メス (sl 13.0 mm), SNMH.

**分布.** アフリカ東岸, モーリシャス, インド, スリランカ, ベトナム, オーストラリア, 香港, フィリピン, 台湾, 韓国, 日本 (太平洋側: 東京湾から鹿児島湾; 日本海・東シナ海側: 山形県, 京都府若狭湾, 島根県, 熊本県天草市) (三宅, 1998; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; 大澤ほか, 2014).

**生息場所.** 岩礁, 砂泥底; 水深 1–180 m から記録されているが, 50 m 以浅に多い (三宅, 1998; 峯水, 2002).

**備考.** イシダタミヤドカリは, ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858) およびベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 とともに, 島根半島沿岸でのサザエ刺網漁業で混獲されるが, 後者 2 種に比べて出現する個体数は少ない.



図 16. *Dardanus crassimanus* (H. Milne Edwards, 1836) インダタミヤドカリ, 松江市島根町小具, 漁港, オス (sl 18.0 mm).

***Dardanus impressus* (De Haan, 1849) イボアシヤドカリ**

(図 17)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014年6月7日, 1メス (sl 11.0 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014年6月27日, 1オス (sl 11.2 mm), SNMH.

**分布.** 日本 (房総半島・山形県から九州まで, 伊豆大島, 小笠原諸島), 韓国, 台湾 (奥野・有馬, 2004; Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007).

**生息場所.** 砂泥底, 岩礁, 転石帯; 水深 5–200 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007).

**備考.** 調査標本はいずれも, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥した個体 (現状はエタノール液浸) である (大澤ほか, 2015). 腹部が失われ, 破損が進んでいたが, 鉗脚および歩脚の形態に加え, 眼柄に 2 本の赤帯を持つことに基づき, イボアシヤドカリに同定された (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007 を参照).

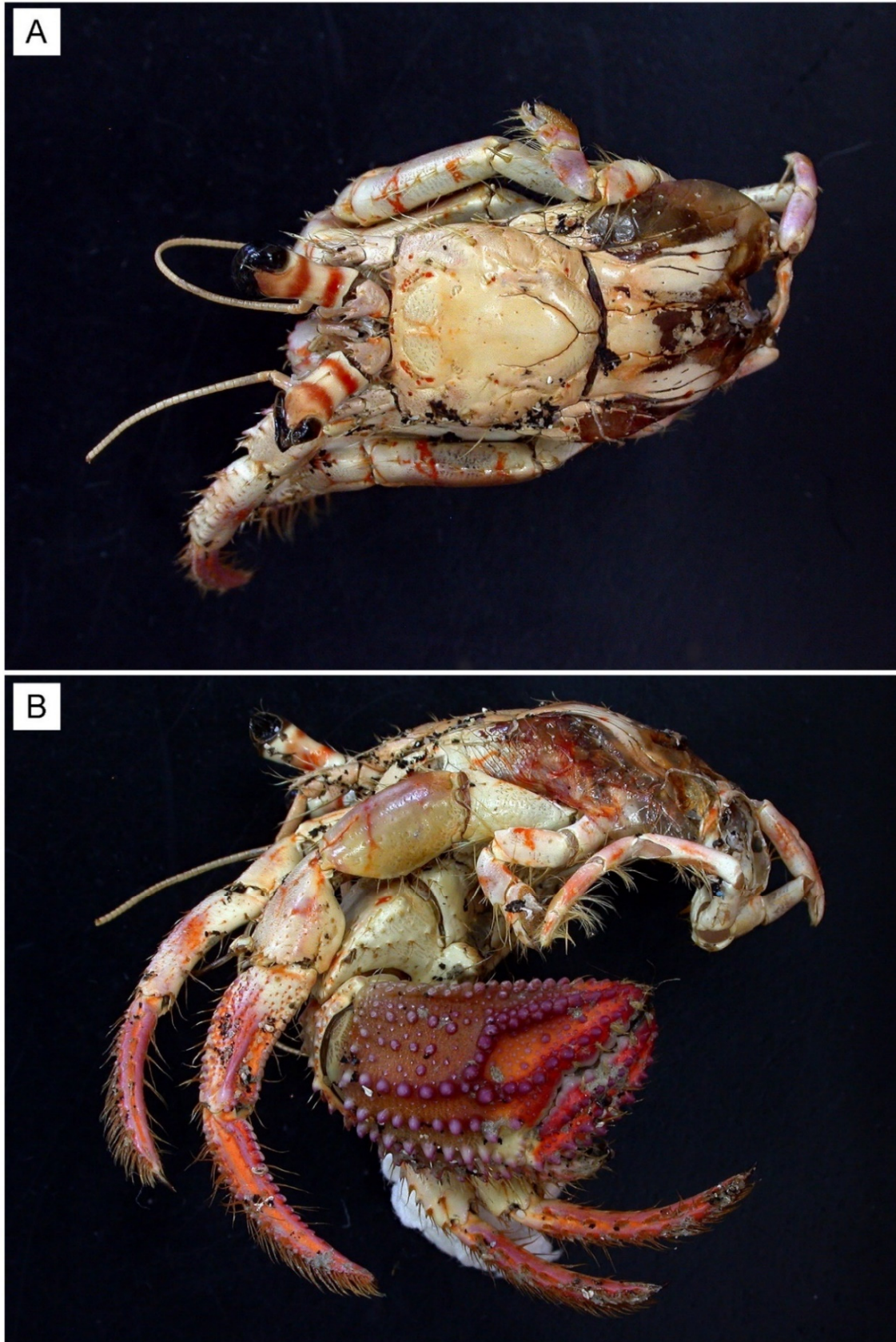


図 17. *Dardanus impressus* (De Haan, 1849) イボアシヤドカリ, 島根県松江市島根町小具, 漁港, メス (sl 11.0 mm), 乾燥, 背面 (A); 同, 左側面 (B).

*Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824) ヤドカリ属の1種 (和名なし)  
(図 18)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 刺網, 漁獲残物, 2013年10月3日, 1オス (sl 8.4 mm), SNMH.

**分布.** インドー西太平洋の広域. 紅海, マイヨット, レユニオン, セーシェル, インドネシア, パプアニューギニア, オーストラリア, ニューカレドニア, フィジー, ソシエテ諸島, グアム, ベトナム, フィリピン, 台湾, 日本 (伊豆半島, 八丈島, 紀伊半島, 琉球諸島, 島根県) (三宅, 1998; 加藤・奥野, 2001; 奥野ほか, 2006; 大澤ほか, 2014, *D. lagopodes* として報告; Malay et al., 2018).

**生息場所.** 岩礁, サンゴ礁, 砂泥底; 潮間帯から水深 5–30 m (奥野ほか, 2006, *D. lagopodes* として報告; Malay et al., 2018).

**備考.** 「オイランヤドカリ *Dardanus lagopodes*(Forskål, 1775)」には, 体色の二型 (黒色型と赤色型)が知られていた (Ball and Haig, 1972; 朝倉, 1995; 奥野ほか, 2006; McLaughlin et al., 2007; “black/brown/blue knee knee”と“red knee”). 調査標本は, 漁港岸に漁獲残物として放置されていた乾燥した個体 (現状はエタノール液浸)であり, 破損が進んでいた. そのため, 標本の新鮮な色彩は不明であったが, 残存している色彩は三宅 (1998: 図版 37, 図 4), 加藤・奥野 (2001: 77, 右下の図), 奥野・有馬 (2004: 図 2J)による「赤色型」の図によく一致していた. このことから, 大澤ほか (2014)は, 調査標本をオイランヤドカリ *D. lagopodes* として報告した.

その後 Malay et al. (2018)は, 赤色型と黒色型はその体色の違いに加えて, 左第3胸脚 (左第2歩脚)の形態の違い (腕節と指節の側面の中央背部に沿った溝の有無)に基づき, 別種であることを明らかにした. Malay et al. (2018)は, 黒色型が真の *D. lagopodes* であると判断し, 赤色型が, この種の新参異名 (junior synonym)とその時点まで扱われていた *Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824)であると結論づけた. なお, *D. lagopodes* の新参異名には *D. affinis* (H. Milne Edwards, 1836)と *D. euopsis* (Dana, 1852), 一方 *D. sanguinolentus* の新参異名には, *D. depressus* Heller, 1861 および暫定的に *D. helleri* Paul'son, 1875 が含まれている (Malay et al., 2018).

McLaughlin et al. (2007: 91, upper unnumbered fig.)・Malay et al. (2018: Fig. 4A)と三宅 (1998: 図版 37, 図 4)・加藤・奥野 (2001: 77, 右下の図)・奥野・有馬 (2004: 図 2J)の調査標本の間には, 前甲の模様の違いがある. 前者では小さな赤い斑紋が前方側部に持つ一方, 後者では前方中央部に大きな赤い斑紋を持つ. 島根県から得られた標本は, その後者と同様な斑紋を持っている.

調査標本は大きく破損していることから, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.

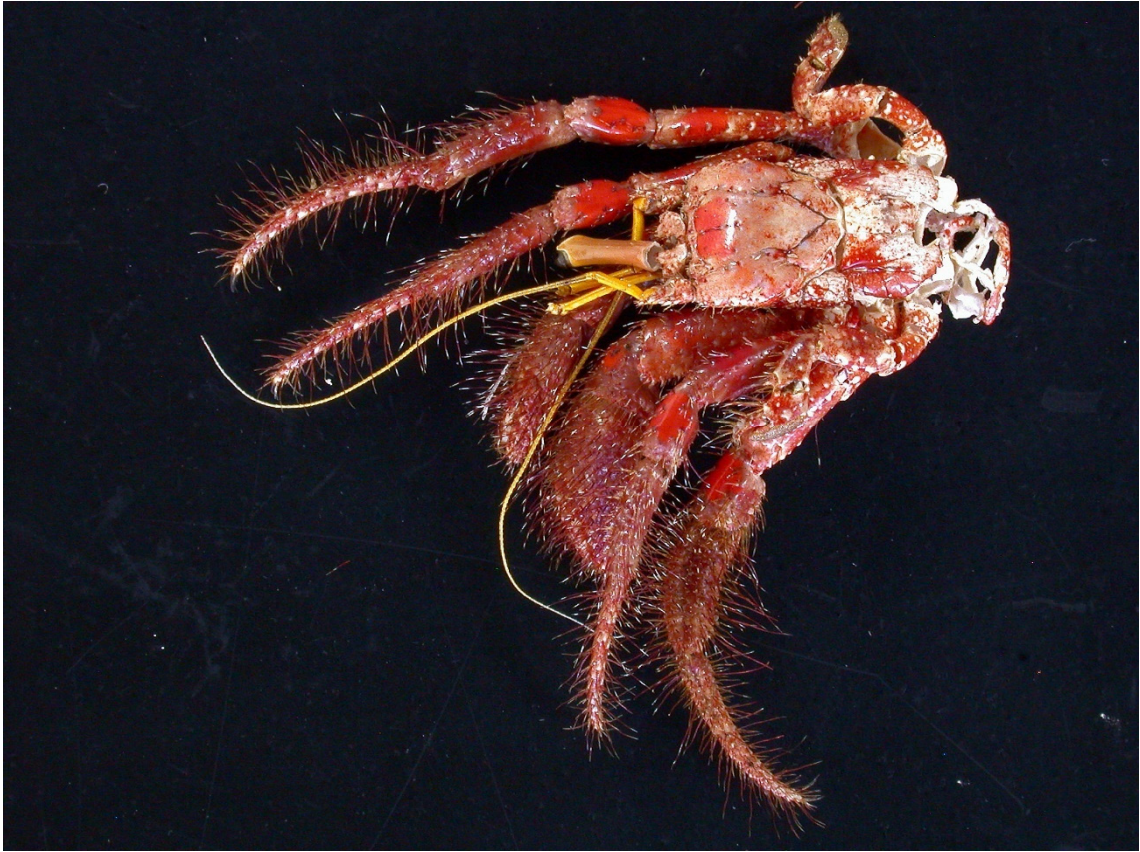


図 18. *Dardanus sanguinolentus* (Quoy and Gaimard, 1824) ヤドカリ属の 1 種 (和名なし), 島根県松江市島根町小具, 漁港, オス (sl 8.4 mm), 乾燥.

***Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849) トゲツノヤドカリ**

(図 19)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町小具, 漁港, 漁獲残物, 2013年6月26日, 2オス (sl 7.6, 7.8 mm), SNMH. 松江市島根町野波, 漁港, 底刺網, 漁獲残物, 2014年6月21日, 2オス (sl 8.0, 9.4 mm), SNMH. 鳥取県. 北条町 (北栄町)松神～東伯町 (琴浦町)二軒屋沖合 3 km, 水深 25 m, 1990年7月6日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 北条町 (北栄町)・羽合町 (湯梨浜町)天神川河口沖合 4 km, 水深 30 m, 1992年6月8日, 3 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

**分布.** 宮城県女川湾・山形県から九州まで, 東シナ海, 韓国, 台湾, 香港 (Asakura, 2006; McLaughlin et al., 2007; Kim and Kim, 2014).

**生息場所.** 主に内湾の砂泥底. 外洋に面した砂底でも確認されている; 水深 10–97 m (三宅, 1998; 峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007; 有馬, 2014).

**備考.** 本種は, 左鉗脚の掌部に通常, ヤドカリコテイソギンチャク *Pycanthus paguri* sensu Uchida and Soyama, 2001 を付けている (三宅, 1998; 峯水, 2002; 有馬, 2014). 調査標本でも, ヤドカリコテイソギンチャクの付着が確認された (図 19 ではヤドカリコテイソギンチャクを取り除いている).



図 19. *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849) トゲツノヤドカリ, 島根県松江市島根町野波, 漁港, オス (sl 9.4 mm).

***Diogenes izanamia* Asakura, 2006** イザナミツノヤドカリ

(図 20)

**調査標本.** 島根県. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013年6月9日, 1オス (sl 2.0 mm), SNMH.

**分布.** 大阪府, 広島県, 石川県, 島根県 (Asakura, 2006; 大澤ほか, 2014; 柏尾ほか, 2016; 吉郷, 2022).

**生息場所.** 岩礁または丸石の浜, 転石下; 潮間帯 (Asakura, 2006).

**備考.** 調査標本に加え, 島根県海士町 (隠岐諸島島前中ノ島)においても本種を確認している.

本尾・山内 (2011)は, 島根県隠岐の島町 (隠岐諸島島後)の賀茂湾における水深2-5 mの砂泥底からツノヤドカリ属の不明種 *Diogenes* sp.を報告しており, その標本は「左鉗脚大で指部に半透明な長毛がある」と述べている. 大澤ほか (2014)は, その形態と採集場所の近似に基づき, 本尾・山内 (2011)の標本についてイザナミツノヤドカリの可能性のあることを指摘している.



図 20. *Diogenes izanamia* Asakura, 2006 イザナミツノヤドカリ, 島根県隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), オス (sl 2.0 mm).



***Diogenes nitidimanus* Terao, 1913** テナガツノヤドカリ

(図 21)

**調査標本.** 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013年10月4日, 1オス (sl 1.7 mm), SNMH.

**分布.** 日本 (北海道南部から九州), 香港, 韓国, ロシア (ピョートル大帝湾) (Asakura, 2006; 朝倉, 2012). McLaughlin et al. (2007)は, 台湾産と日本産の標本を比較し, それらに形態の違いが見られることから, 前者を *Diogenes aff. nitidimanus* として報告している.

**生息場所.** 河口などの塩分の低い場所の砂底, 砂質の干潟; 潮間帯から水深約 10 m (朝倉, 2012; 有馬, 2014).

**備考.** 調査標本は尾節を欠いていた. 本種の形態的特徴については, 朝倉 (1995)および Korn et al. (2008)が示している. 調査標本は, Korn et al. (2008)によるテナガツノヤドカリの表徴形質におおまかに一致していたが, 左鉗脚と歩脚の剛毛の状態に違いが見られた. 歩脚の指節の剛毛は, Korn et al. (2008)によるテナガツノヤドカリの図に比べて, 調査標本では明らかに少なく, まばらであった. 調査標本では, 左鉗脚の指節および掌部の上縁にまばらな剛毛が存在するが, Korn et al. (2008)では剛毛の有無について記載されていない. 調査標本は小型の 1 個体のみであることから, 暫定的にテナガツノヤドカリと同定したが, 今後の追加標本の検討により別種となる可能性がある (大澤ほか, 2014).



図 21. *Diogenes nitidimanus* Terao, 1913 テナガツノヤドカリ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (sl 1.7 mm).

*Diogenes pallescens* Whitelegge, 1897 ツノヤドカリ属の1種 (和名なし)

(図 22)

調査標本. 島根県. 出雲市十六島町, 十六島漁港, 2013年10月20日, 1メス (sl 2.5 mm), SNMH.

分布. アフリカ東岸からアンダマン海, ベトナム, 日本 (房総半島, 伊豆大島, 琉球列島, 島根県), マレー列島, オーストラリア北部, グアム, ツアモツ (Rahayu and Osawa, 2012; お茶の水大学湾岸生物教育研究センター, 2013; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2014).

生息場所. 岩礁, サンゴ礁, 砂れき・砂泥底; 潮間帯から水深 70 m (McLaughlin, 2002b; Rahayu and Osawa, 2012; 有馬, 2014).

備考. 調査標本に加えて, 松江市島根町加賀桂島からも本種を確認している.

McLaughlin (2002b)は, *Diogenes gardineri* Alcock, 1905と*D. serenei* Forest, 1956を本種の新参異名 (junior synonym)であると結論付けている.

調査標本は左鉗脚を欠いており, 状態が十分ではないことから, 当標本に基づいた和名新称の提唱を避けた.



図 22. *Diogenes pallescens* Whitelegge, 1897 ツノヤドカリ属の1種 (和名なし), 島根県出雲市十六島町十六島漁港, メス (sl 2.5 mm).

*Diogenes spinifrons* (De Haan, 1849) トゲトゲツノヤドカリ  
(図 23)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013 年 10 月 4 日, 1 メス (sl 3.9 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 砂底, 2013 年 10 月 5 日, 1 オス (sl 1.9 mm), SNMH.

分布. 日本 (相模湾・山形県から九州まで), 台湾 (三宅, 1998; McLaughlin et al., 2007).

生息場所. 砂泥底; 潮間帯から水深 30 m (峯水, 2002; McLaughlin et al., 2007). 朝倉 (2012)によると, 本種は「外洋性の砂浜潮間帯から潮下帯に生息する」としている. 一方, 有馬 (2014)は, 「遠浅で幅のある砂底, 砂泥底を好む」としている.

備考. 本種は, 形態が類似するトゲツノヤドカリ *Diogenes edwardsii* (De Haan, 1849)とは異なり, 左鉗脚の掌部外面にヤドカリコテイソギンチャク *Pycanthus paguri* sensu Uchida and Soyama, 2001 を付けることはない (三宅, 1998; 峯水, 2002). 加えて, 左鉗脚の掌部外面は, トゲトゲツノヤドカリでは多数の小棘状突起に覆われる一方, トゲツノヤドカリでは棘状突起の数が少なく, むしろ滑らかな部分が多く占める.



図 23. *Diogenes spinifrons* (De Haan, 1849) トゲトゲツノヤドカリ, 島根県松江市島根町加賀桂島, メス (sl 3.9 mm).